

# 龍谷大学 兵庫県との連携事例

## 自治体の課題(ニーズ)



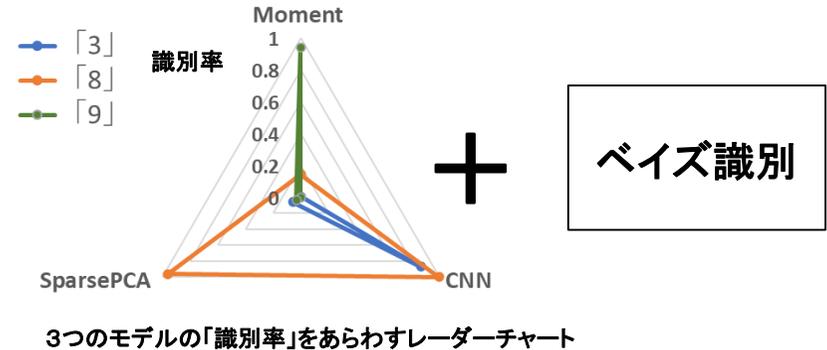
拡大

実際: 91-73

兵庫県警察科学研究所では、捜査部門からの依頼に基づき各種鑑定を行っているが、防犯カメラ等で車を撮影した画像データでは、ナンバープレート部分を拡大した場合超低解像度になり、車両のナンバープレート数字が識別できないという課題があった。

こうした課題の解決のために数字の識別研究が進んでいるものの、特に、「3」「8」「9」の識別が難しいとされている。

## 研究成果(シーズ)の還元



ナンバープレートの数字を解析するにあたり、識別したい数字により、特徴抽出可能な機械学習モデルがそれぞれ異なっている。

そこで、複数の機械学習モデルによる数字の識別の実施に加え、解析の際に間違った数字を追加学習するベイズ識別を導入することで、超低解像数字の識別率を改善するに至った。

## この連携に携わった研究者



### (研究者の経歴又は研究者からのメッセージ)

1988年 - 2003年: 京都工芸繊維大学工学部 助手

2003年 - 2004年: 京都工芸繊維大学情報科学センター 助教授

2004年 - 2011年: 龍谷大学理工学部 准教授

2012年 - : 龍谷大学理工学部 教授(2020年4月より改組により先端理工学部 教授)

※ 研究者の経歴等は(URL: <https://www.rikou.ryukoku.ac.jp/teachers/info07.html>)をご参照下さい。